

## 孫との想い出

中央区・清滝支部 小田原良治  
(小田原病院)

本誌59巻8号に掲載された「三たびの子育て」が日医ニュース4月5日号に転載された。おかげで、自分の書いた文章を読み直す機会を得た。読んでいて、思わず眼がしらが熱くなってきた。自分の文章に感激したわけではない。孫との泣き笑いの生活を想いだしたからである。

孫を引き取った最初のころは、娘が週末に鹿児島に帰って来ていた。結局、鹿児島は鎖国状態となり、娘は全く帰って来れなくなつたのだが、当初は娘と孫と4人でドライブする余裕があったのである。

娘と孫を連れて、4人で、指宿唐船峡そうめん流しへ行った。鹿児島の良さを孫に教えようと思って行ったのである。

ニジマスの釣り堀がある。釣ったさかなは塩焼きにして食べさせてくれる。孫がきっと喜ぶと思って出かけた。じじ馬鹿そのものである。

孫と一緒にニジマスを釣った。養殖してあるニジマスは、釣り堀に移すと、餌を与えるに空腹にしておくのだそうである。空腹なのですがすぐに食いついてくる。孫がニジマスを釣り上げると、私は急いでタオルでさかなを取り押さえて針を抜く。最初はおっかなびっくりで腰が引けていた孫も、2匹、3匹と調子が出てきた。4人分、4匹を釣り上げた。

「さ～、おそうめんを食べよう」

孫が釣り上げたニジマスを持って行く。

「おじさ～ん、お願ひしま～す」

孫もそうめん流しがだい好きである。そ

めんがクルクル回るのを喜んで食べる。そうめんを食べているうちにニジマスの塩焼きが出来あがってきた。

「さ～、おさかなが来たぞ～」

孫の目がマスの塩焼きにくぎづけになった。

「死んでる…」

じじ、ばば、娘、3人が目を合わせる。3人とも目でものを言っている。

「まずい」、「どうしよう」

と、孫の目がさかながらそうめんに移った。そうめんを食べ始める。傍に置かれたマスの塩焼きも食べ始めた。

「おさかな、おいしいね～」

「うん、おいしい」

「よかった～」、3人が安堵の目を見合せた。よかった、よかった。子供は立ち直りが早い。こうやって、人間は生き物を食べて命をつないでいることを学ぶのだ。そうめんとニジマスの塩焼きをいっぱい食べて帰路についた。

孫も、4月から1年生だ。ランドセルは似合うかな～。休みに帰ってこないかな～。日医ニュースのおかげで孫との想い出が駆け巡った。